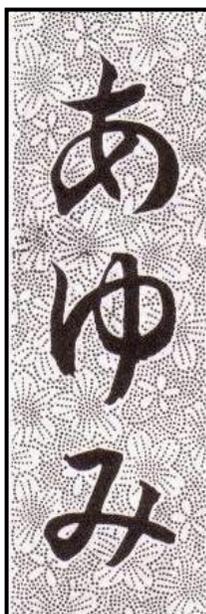


来られた救いの主に賛美！神に感謝！



2022年
クリスマス号 Web版



発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463

皆様、主のご降誕、おめでとうございます。
私たちは、今年も、昨年引き続き、例年とは異なる状況・環境の中でキリストの御誕生を記念する日を迎えることとなりました。けれども、主はいつもと同じように私たち一人一人に特別な恵みを与えて下さいますし、一人一人の心へ必要な言葉を伝えて下さり、また、必要な慰めを与えてくださっています。

管理司祭 ホルヘ・マヌエル・マシアス・ラミレス

主のご降誕、
おめでとうございます



ヨセフとマリアを担ぎ一晩を泊まる場所を探します

今回は、メキシコではどのよう
に幼な子イエス様の御降誕を祝つてい
るかを紹介いたします。十二月十六日か
ら二十四日まで九日間になります。一
十六日からヨセフ様とマリア様が一
晩の宿を探していることを記念とし
てポサダ(ノベナと同じ期間を言い、
かつ宿の意味がある)をするために
近所でも教会でも信徒が集まって、
ロザリオを祈って、ヨセフとマリア
の一晚の宿を願うための特別な歌を
歌います。祈りが終わると、ブニユ
エロとコーヒを飲みます。ブニユ
エロというおやつは飲みます。ブニユ
ルコとエジプトで食べられていました。



幼な子イエス様を礼拝の後で、もらう袋「ボロ」



ピニャータ



幼な子イエス様に礼拝



降誕を祝う人々

麦粉と水で作って油で揚げた小さい
 たまの形のおやつです。そしてス
 インの文化が入ったので十六世紀か
 らメキシコでも作ることになりました
 だが、形は変わってピザのような形
 になりました。ブニエロはクリス
 マスケーキの代わりではありませ
 ん。一月六日に博士のパンを食べま
 す。博士のパンについては別な機会
 に説明します。
 食事が終わったら、子供たちのた
 めにピニャータというものを割りま
 す。ピニャータの中身は果物とお菓
 子（オレンジ、ミカン、サトウキビ、

あめ）です。
 メキシコはカトリックの国なので
 十六日から二十六日まで学校はクリ
 スマス休みとなります、これで多く
 の子どもたちが集まります。
 二十四日のポサダに幼な子イエス
 様も生まれているので、幼な子イエ
 ス様に礼拝をすると小さいお菓子の
 袋「ボロ」をもらいます。これは、
 メキシコで子どもたちの信仰を育つ
 ことのひとつの方法です。
 皆様とご家族が喜びの内にキリス
 トの御降誕をお祝いすることが出来
 ますようお願いしております。

教会委員会だより

教会委員会委員長

主のご降誕おめでとうございま
 す。私達のためにこの世に訪れてく
 ださった救い主を思い起こし、その
 大きな喜びを心から分かち合いまし
 よう。それでは、八月からの高幡教
 会の歩みをお知らせします。

●八月十五日(月) 午前十時 聖母被
 昇天のミサ

聖母被昇天のミサを午前十時にお
 捧げしました。今年は夜ではなく午
 前中に行いました。

●八月二十一日(日) 準備会

午後一時より第二回準備会を開催
 しました。多くの方にご参加いただき
 ました。

●八月三十日 病者の塗油

第五日曜日であるこの日は、主日
 のミサの中で病者の塗油を、ホルヘ
 神父様より希望者に授けていただき
 ました。

●九月一日(火) 主任司祭交代

四月より高幡教会の主任司祭を務
 めていただいた辻神父様が

八月末で退任され、多摩教会主任である宮下良平神父様が、主任司祭代行として着任されました。

●九月十八日 敬老のミサ
九時、十一時のミサを敬老のミサとし、希望者に病者の塗油を授けていただきました。また、敬老のミサの記念に御絵をお配りしました。

●十月九日
宮下神父様に高幡教会での最初の主日ミサを捧げていただきました。

●十月十六日・二十三日
新しい「ミサの式次第」の配布を始め、両日はミサ後に読み合わせを行いました。

●十月二十九日(土) 準備会
午後二時より宮下神父様を交えて第三回準備会を開催しました。

●十月三十日 病者の塗油
主日のミサの中でホルへ神父様より希望者に病者の塗油を授けていただきました。

●十一月六日 故人のための祈りのミサ
九時のミサ、十一時のミサで故人のための祈りを捧げ、一人ずつお名前を読み上げて追悼し、故人を偲びました。

●十一月二十日午後一時 七五三(子ども)のミサにて
教会学校の子どものミサの中で、七五三のお祝いがありました。教会学校外の子も含め、三人が七五三の祝福にあずかりました。

●十一月二十三日(水・勤労感謝の日) 午前十一時 献堂四十周年記念ミサ
幸田元補佐司教様司式の下、加藤神父様、伊藤神父様、ルカ神父様、宮下神父様、ホルへ神父様の共同司式で、献堂四十周年記念ミサを捧げました。

●十一月二十七日
待降節第一主日のこの日から、ミサ式文が新しくなりました。

●十二月十八日午後一時
教会学校のクリスマス会が行われました。この日の子どもミサは、ボーイスカウト・ガールスカウトの皆さんが参加しました。

主任司祭が交代し、ミサ式文が新しくなり、変わっていくことだらけの四ヶ月間でした。私達高幡教会の信徒がその中で、常に宣教司牧の情熱を燃やし続けていきますように、主のお力を願います。



教会学校より

子どもミサ・
クリスマス会開催

十二月十八日に子どもミサ後、教会学校のクリスマス会が行われました。十三時からの子どものミサにはボーイスカウト・ガールスカウトも参加し、久しぶりに聖堂が子どもでいっぱいになりました。クリスマス会ではくつしたの宝探しでプレゼント交換を行いました。自分の用意したプレゼントは喜んでもらえたでしょうか。イエス様の誕生を喜ぶともよい一日になりました。



子どもミサの様子



クリスマス会に
サンタクロース登場



献堂40周年記念ミサが行われました



十一月二十三日(水)十一時から、幸田元補佐司教様の主司式で献堂四十周年記念ミサが執り行われました。司祭団は歴代司祭のベロツティ・ジャンルーカ神父様、加藤英雄神父様、当教会出身司祭の伊藤淳神父様、そして当教会主任司祭代行の宮下良平神父様、管理司祭のホルヘ神父様でした。

幸田元補佐司教様は説教で、献堂四十周年を祝賀された後、「この教会が四十年間立ったことですから、私も祝っているのは建物ではありません。キリスト教共同体があるということ、を祝っていると思います。」に続いて、「今日の福音に神殿という言葉が出ていますが、イエスの言われる神殿は三日で立て直す神殿、ご自分の体のことだったですね。神殿とは神がそこに生まれ、人と神とが出会う場、それは建物ではないとイエスは言われます。イエスご自分において人は神に出会うということでしょう」と話し、「そのイエスが目に見えなくなつた今、キリスト教信者の集いである教会は、同時に神と人とが出会う場所であることを献堂四十周年に当たってお祝いしたいと思えます」と語られました。

ミサ後、聖堂にて記念写真の撮影がありました。



ミサ後の記念写真